みんなの会（仮称）議事録

日　時：平成30年10月2日（火曜日）19：00～21：00
場　所：富士市民活動センターコミニティｆ第2、第3会議室
議　題：今後の推進体制について（準備事務局設置の件）
参加者：市民9名、アドバイザー1名

＜意見交換会 まとめ＞

1)　「環境学習施設で実施したいこと」について
　多数の意見が提出されたが、これについては今後、分科会で議論していってはどうかということになり、分科会の案を次回の意見交換会で市、川崎重工、クリーン工房等の意見を聞く。

2)　「準備事務局の設立」について
　まずは、以下の４名でスタートし、事業計画作りに着手、その後、必要に応じてメンバーを補充する。

✧　市民活動サポート	今屋敷
✧　議事録作成	鳥谷
✧　イメージに落とし込み	太田
✧　自然環境の団体とのつなぎ役	太田
✧　市役所との窓口	太田、木村

＜意見交換会 内容・経緯＞

　参加者より、今後の推進体制を考えるにあたり、準備事務局の必要性を前提に2つの質問を各人に答えていただきたいとの提案があった。

質問1：みんな（各人）が環境学習施設で行いたいことは何か。
（アドバイザー補足：なぜ意見交換会に参加したか、今こんな風にかかわりたいと考えているか）
質問2：準備事務局のミッションは何か。
（アドバイザー補足：ミッションは使命、役割と置き換えられる）

アドバイザーが準備事務局の考え方について、参加者の考え方の整理を行った。
　なお、参加者から、監査会をいずれ設けるべきではないかとの意見があったので、記載しておく。この場合の監査会とは、計画時の目標（例えば来場者数）を達成しているかどうかを市民の目線で監査する役割を指す。

現時点　　⇒　　施設の運営を開始

準備事務局	事務局	監査会（市民の視点から見た、成果と評価 事務局【指定管理者（クリーン工房）+市民スタッフ（有給）】 市民ボランティア

19：30まで氏名、質問1の回答、質問2の回答を記入し、その後各自で発表した。
（前に発表した人と重なる場合は、その部分の発表はせず、発表時間の短縮に努めた。回答は後に提出された回答用紙を写したもの。）

＜質問1　「環境学習施設で行いたいことは何か」の回答＞（19：30～20：30）

参加者①
- ビオトープの活用、どんなことができるか。
- 施設での自然遊びや自然環境に関するプログラムの立案・計画・実施。県の博物館でボランティアスタッフとしてプログラムの立案を実施しているので、この施設で行うプログラムの計画や実施について何か言えたらいいかな。

参加者②
- クリーンセンターの排熱利用方法、廃棄物を有価物に変える手法（生ごみ）
- 富士市の環境（自然）改善の見える化
- 市役所内部の横割り化への変化がこの施設の運営を通してできないか
- 富士市内の利便性改善への第1歩（補足：施設の公共交通のハブ化）。

参加者③
- 富士市の環境（公害も含む）日本一の環境に関して、情報の集約された施設を望む「ふじエコミュージアム」構想（補足：施設を中心として、富士市内の環境を学ぶ場とする考え方）を活かしたい。
- 長期にわたりしっかりと運営・管理され、地元に親しまれ、多くの人の交流が生まれる施設にしたい。

参加者④
- 私は公害についての歴史、特に富士市の公害についての歴史を展示し、実体験（特に市民運動）について話を聞ける講座を主催したい。これから公害が起こる国や地域の人たちにとって、役に立つ施設になると考える。また、修学旅行に訪れてもらえるようにしたい。

参加者⑤
- 山（登山）にかかわる行事に関心をもっている、ビオトープを主体とした自然の生き物に関心がある。

参加者⑥
- 小学生以外の来館者を呼ぶプログラム（多角的に）。

参加者⑦
- 市民の集まる施設、お金をかけない施設、早く進めたい（最後にまとまる）

参加者⑧

- 地元エコ作りの会として提案を出している、全市的なものとなるように働きかけを行った、子供たちも含めて利用してもらいたい。

参加者⑨

- 富士市の紙の歴史（公害も含めた）を伝え、次世代につなげる、紙のリユースプログラム（作るワークショップで終わりではなく、どう使うか、どう見せるか（展示、インスタレーションなど）、他素材×紙の組み合わせでリユースを考えるのもあり。

参加者⑩

- 紙の町作りに参加し、伝統文化を伝えたい。特に和紙について子供達に手作り出来ることを認識してもらいたい。手作業を学んでもらうための技術、知識を一致するように学んで欲しい。伝統料理、伝統住宅等地域の伝統文化の伝承を子供達に伝える

＜質問2　準備事務局のミッションは何かの回答＞

参加者①

- 施設が出来た時に全体を通すテーマの確認作業。この施設でどんな団体が、どんなプログラムが出来るかの洗い出し。

参加者②

- 期限通りにオープンできること、集客率を考慮したテーマづくり、組織の中心で市役所・クリーン工房との連携の円滑化。

参加者③

- 市民の意見・想いの集約、情報の共有化・受発信、行政・坂本氏・事業者との日程調整等。

参加者④

- 環境学習施設の目標について、参加を希望する全ての人たちに共通の土壌をつくり、意見を集約して、富士市・川崎重工・クリーン工房との調整をする、事務局への橋渡しを行う。

参加者⑤

- 議事録の作成を主に行う、議事録の内容を一般公開すべきものとそうでないものに仕分けする

参加者⑥

- 事業計画の立案・遂行（32年までのスケジュールを明確に）（インタープリーターの制度作りなど）

参加者⑦

- 細かいことを決める事務局⇒決定機関になってない。
- 意見交換会で議論した内容を最後までまとめる。
- 意見交換会を主催する市役所の建設課のメンバーを入れる。
- メンバーは10人以内とする（大勢ではまとまらない）会議の参加率が50%以上のやる気のある人

- 立候補制。

参加者⑧

- 有償で行えるよう。活動費がもらえるようにした方がよい。
  （参加者から、準備事務局はともかく、事務局になった時には活動費が下りる仕組みにしたい。）

参加者⑨

- 興味関心の仕分け（補足：かかわりたい状況、例えば何か手伝いたい方もいれば、講座を開きたい方、本拠地にしたい方まで、かかわり方は様々だ）、方向性の整理。

参加者⑩

- 和紙作りを子供たちに、こうぞ、ミツマタ等育てて紙の出来ることを示すことが出来れば、和紙を使っての現代の造形

質問 1 は、みんなの関心をきく質問であったが、この内容は今後、分科会で議論していってはどうか。分科会の案を次回の意見交換会で市、川崎重工、クリーン工房の意見を聞く。

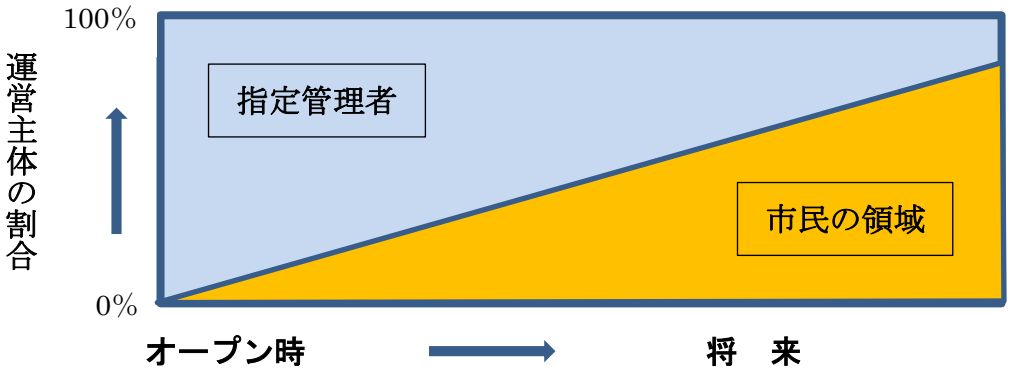
- 意見交換会（富士市主催）は市・川崎重工からの質問に市民が答える場、市民からの質問に市・川崎重工が答える公の場と考えてはどうか。
- みんなの会（仮称）はどなたであっても参加できる場であり、メーリングリストに登録すれば出席しなくても議事録を読むことができる。準備事務局が主催し、日程を調整、議事録を作成する。
- 意見交換会では、みんなの会（仮称）でまとまったことを発表する時間をもらえるようにしてはどうか。

質問2の回答を受けて、準備事務局にはこのような能力の人がふさわしいということを挙げた。

- 市民活動をサポートできる人がいるとよい。このことからコミニティｆの今屋敷さんが推薦され、応じた。
- 議事録を作る人として、鳥谷が手を挙げた。また、イメージに落とし込み、自然環境の団体とのつなぎ役として、太田さんが手を挙げた。
- 市役所との窓口には、太田さん、木村さんが手を挙げ、その理由として平日でも訪問が可能で、連絡がしやすい。これから参加しようとする市民の窓口としては、今屋敷さんが手を挙げた。
- 事業計画づくりは準備事務局、事務局、環境学習施設の3種類が必要となる。とりあえず上記の4名で進めるとする。
- 準備事務局では、追加で人員が必要となれば、補充する。

フリートーク（20：30～21：00）

発表中に「早くしないと時間がない」との発言が繰り返されたので、アドバイザーから「オープン時に完成している施設ではなく、時間と共に係る人たちと一緒に成長していける施設をイメージしてください」との助言があった。



＜その他の意見＞

- 情報公開については、議事録をメーリングリストに登録した人たちに送ること。できれば市役所もしくは川崎重工の作成するホームページで公開してもらった方がいいかもしれない。市役所、川崎重工さんに確認する。
- みんなの会（仮称）の名前を決めた方がよい。「環境学習を創る市民みんなの会」ではどうかとの案がでた。
- 工事中であるが現地の見学を行いたい。できれば、この話し合いに係る人たちで行った方がよい。現地を見ることで周りとのつながりが分かる。
- 現在の清掃センターの見学も加えてはどうか。小学4年生が受けるプログラムを実際体験すれば、改善点の意見も出やすい。

以上